

## 檀林と災害

匠瑛探訪

162

9月、10月と台風被害が続きました。江戸時代に日蓮宗の学問所だった飯高檀林（飯高寺）にも台風被害の記録が残されています。

175年前の飯高村の家数は115軒で、村内は三つに分けられて支配され、うち飯高寺領は30軒でした。同寺には幕府から30石（約3ヘクタール）の土地が与えられ、領内の農民はこれらを耕作し寺に年貢を納めていました。

当時の檀林境内の杉林の中には学徒の寄宿舎が建ち並び、領民も境内周

辺に住家を構えています。そうした中、飯高寺周辺の台風被害は天明3（1783）年8月もありました。

16日夜半から雨が降り出し、18日夕方からは「大風雨（台風）」になり寄宿舎や民家などが被害を受け、記録には20日に「ビヤク」と書かれ、境内下の2軒が土砂被害を受けたことが知られます。境内の倒木も見られ、寺に届け出があり責任者が現場を確認し伐採を許可した、と記録されています。雨は20日、21日も降り続けました。被災した民



台風15号通過後の飯高寺の様子（9月9日）

台風15号の影響で倒木した境内の杉



家への対応は書かれていませんが、「22日快晴」とあるのでこの日から領民総出で復旧作業に当たったのでしょ。

領内の農民は、年に4回、各家から1人ずつ人を出し境内や周辺の道の整備や、台風などの際には寺が近隣村に所有する山林の被害状況を名主などの村役人を通して寺側へ伝えました。寺の事務日誌と言える記録からは、寺側と農民代表者とのやりとりを知ることができ

ます。

（市文化財審議会委員・

依知川雅二）

問秘書課広報広聴班  
☎73・0080